［認知症対応型共同生活介護用］

# 1.　評価結果概要表

作成日　2008年8月30日

## 【評価実施概要】

| | |
|---|---|
| 事業所番号 | ０８７１８００１９９ |
| 法人名 | 有限会社　サンミルクサービス |
| 事業所名 | グループホーム　バンヤンツリー |
| 所在地 | 茨城県坂東市岩井5200－29<br>（電　話）0297－34－3738 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人　認知症ケア研究所 | | |
| 所在地 | 茨城県取手市井野台4－9－3　D101 | | |
| 訪問調査日 | 平成20年8月29日 | 評価確定日 | 平成20年12月10日 |

## 【情報提供票より】（平成20年8月13日事業所記入）

（1）組織概要

| | | |
|---|---|---|
| 開設年月日 | 平成　16　年　10　月　1　日 | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計　18　人 |
| 職員数 | 15　人 | 常勤　13 人，非常勤　2 人，常勤換算　13.7 人 |

（2）建物概要

| | |
|---|---|
| 建物構造 | 木造　造り |
| | 1 階建ての　階　～　1 階部分 |

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 家賃（平均月額） | 60,000　円 | | その他の経費（月額） | 共益費15,000　円 |
| 敷　金 | 有（　円） | | 無 | |
| 保証金の有無<br>（入居一時金含む） | 有（　120，000　円）<br>無 | | 有りの場合<br>償却の有無 | 有／無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり　1，500　円 | | | |

（4）利用者の概要（8月13日現在）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 利用者人数 | | 18 名 | 男性　8 名 | 女性 | 10 名 |
| 要介護1 | | 3　名 | 要介護2 | 5 | 名 |
| 要介護3 | | 7　名 | 要介護4 | 1 | 名 |
| 要介護5 | | 2　名 | 要支援2 | 0 | 名 |
| 年齢 | 平均 | 81.2 歳 | 最低　66 歳 | 最高 | 96 歳 |

（5）協力医療機関

| | |
|---|---|
| 協力医療機関名 | 医療法人　江東会　存身堂病院 |

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅街に位置し、小・中学校も隣接する環境にある。地域の方や子ども達の慰問も多く、利用者の楽しみとなっている。職員は利用者のペースを大切にしながら個々を尊重したケアの提供を心掛けている。また、家族の意見や要望を取り入れたり、地域との連携を取りながらホームの運営を行なっていけるよう取り組んでいる。今後も、利用者を支えるための支援を家族、地域と共に行っていくことが期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

| | |
|---|---|
| 重点項目① | **前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）**<br>前回の評価を受け重点的に改善した点としては、個人情報の取り扱いについての書式の整備と共に、家族への報告内容の検討を行ない、医療的な部分を充実させた。<br>**今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）**<br>全職員が自己評価表に目を通し、各項目に記入しながら管理者がまとめを行なっている。 |
| 重点項目② | **運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）**<br>外部評価の報告や行事報告などを行なっている。家族からの要望として、介護教室なども行なって欲しいと挙げられており、今後の課題となっている。 |
| 重点項目③ | **家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）**<br>面会時や家族会などに意見や要望を確認知る機会を設けており、苦情となる前に解決できるよう取り組んでいる。 |
| 重点項目④ | **日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）**<br>自治会に入会しており、地域の一員としての役割をできる範囲で行なうよう務めている。また、ボランティアも地域の方が多い。 |

# 2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | | |
| 1．理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br><br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 個々を尊重し自宅にいたときと同じような環境での生活が送れるよう地域に根ざしたホームを目指した理念を掲げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br><br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 月1度のミーティングで話し合い、理念を確認することで日々のケアの中で疑問に感じたことや、行き詰まったことを解決できるよう取り組んでいる。 | | |
| 2．地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい<br><br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 日常的な挨拶や野菜を頂くなど、近隣との関係性も良好である。また、地域の学校行事への参加やボランティアの受け入れなども積極的に行なっている。 | | |
| 3．理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 全職員が自己評価を行なうことの意義や第三者の意見を積極的に取り入れようと取り組んでいる。また、今回の評価を受けての改善計画も今後予定されている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ホームの現状報告や意見交換の場として活用すると共に、地域連携を図るための場としての意識も高い。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 9 | ○市町村との連携<br><br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 解決困難事例や金銭管理についての相談を行なったり、地域包括支援センターとの情報交換も行なっている。 | | |
| ４．理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時や毎月の広報誌を活用して健康状態や日々の様子を送付している。また、必要時にケース記録の開示を行い、詳細な日々の様子を報告している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年4回ほどの家族会の時には、意見交換ができるような配慮がされている。意見箱の設置と共に、意見や要望があったときには専用の記録用紙に記載している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br><br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 基本的には固定のスタッフが各ユニットに配置されており、常に行き来をすることで馴染みの関係ができている。新職員についてはサポートできる体制を作り利用者の混乱を避けている。 | | |
| ５．人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み<br><br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修は全職員が参加できるように配慮しているが、まだ計画的に参加予定や予算を取ることができていない。 | ○ | 今後は、内部の勉強会も含め、係りなどを設け計画的に研修参加を行うことで職員のスキルアップを図っていくことが期待される。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br><br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣市町村のグループホームへの訪問や意見交換の場を定期的に設けており、質の向上に努めている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 個々の状況に合わせた形での体験利用を行ないながら入居できるような体制作りがされている。また、入居当初は家族の協力を得ながら環境に馴染めるように取り組んでいる。 | | |
| 2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者と一緒に過ごす時間を十分にとるようにし、思いに寄り添うケアを大切にしている。利用者からの感謝の言葉が職員の支えとなっている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 1．一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話や言動、表情などから要望や意向の把握を行なっている。家族からの情報も大切にし、日々のケアに活かしている。 | | 生活歴や新しく得た利用者の情報などをまとめられるような書式の整備をすることで、より利用者の意向の把握ができるようになると感じる。 |
| 2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の意向、要望を取り入れた介護計画を作成するよう取り組んでいる。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の評価、カンファレンスを行ない定期的な見直しが行なわれている。 | ○ | ケース記録の内容を介護計画と連動させることで、より計画の妥当性や今後の課題が見え見直しの材料となることを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 外出、受診支援、遠方への外出など家族や利用者の要望に合わせた支援がされている。また、認知症に対する相談や他のサービスの情報提供なども行なっている。 | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力病院の医師が往診を行なっており、緊急時の対応も可能となっている。また、利用者や家族が希望する医療機関への受診支援も行っている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | ホーム内でできる限りの支援をしていくことを決めており、利用者、家族、医療機関との連携を図りながら支援を勧めていく方針である。 | ○ | 今後は利用者、ホーム側が出来る事・出来ない事を明確にした指針を提示し、その上で話し合いをしていくことが望まれる。また、話し合いの記録の整備も望まれる。 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**<br>１．その人らしい暮らしの支援<br>（1）一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 言葉使いは丁寧で個々に配慮したものであった。個人情報の取り扱いについてや、記録の書き方にも注意を払い、プライバシー保護に努めている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々のやりたいことを尊重し、それぞれのペースを大切にしたケアを提供している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 委託業者が調理を行なっているが、イベントや利用者が食べたいものなどは一緒に作る楽しみがある。食事中の利用者の表情も楽しそうであった。外食の支援も行っている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 夜間帯の入浴も可能で個々のペースに合わせた時間で提供している。拒否のある方に対しては、清拭や足浴等で対応している。 | | |
| （3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 得意なことやできることを見つけ、自然に行なえるよう取り組んでいるが、一部の利用者が中心となっている。 | ○ | 毎日でなくとも、利用者の状況に合わせて役割を見つけることでより張り合いのある生活が送れることを期待したい。 |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 買い物、散歩、ドライブ、図書館、外食など日常的に行なわれている。また、遠方への外出なども行なっている。 | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 庭や中庭には自由に行き来ができるように施錠はされていない。また、門から出るときは職員が必ず付き添いを行い、安全に留意している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消防署立合いのもと、避難訓練や避難経路の助言を取り入れている。非常食の準備もされている。また、地域の消防団への入会もしているため連携が図れるよう取り組んでいる。 | | 今後は、地域との連携を具体化するために連絡網の作成などを行い、地域と合同の避難訓練の実施が期待される。 |

| 外部 | 自己 | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組みを期待したい内容<br>（すでに取組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|---|
| （5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量の記録が詳細にされている。体調の変化に応じて、食事内容の変更も行なっている。 | | |
| 2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>（1）居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 清潔感のある共用空間であり、利用者だけでなく家族や来訪者が寛げる空間となっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の趣味のものや大切にしてきた物が置かれ、機能的で安心できる場所となるよう工夫されている。 | | |